

## 会議・行事の記録

教育長	課長	補佐	係長	合議	提案
合議先（企画振興課・熊石教育事務所）		決裁年月日	平成30年8月15日（水）		
		会議名称	平成30年度 第1回八雲町文化財保護審議会		
		会議日時	平成30年6月18日（月）10時00分～12時00分		
		会議場所	公民館 第1会議室	起案者	主事 大谷茂之
<p>◆出席者：○文化財保護審議会委員：井上会長・長坂副会長・高橋委員・三浦委員・幸村委員・小島委員。 ○教育委員会：吉田社会教育課長・柴田文化財係長・大谷文化財係 ○傍聴者：なし。</p>					
<p>1. 開会 2. 挨拶 吉田課長、井上会長 3. 委員・職員紹介 4月で職員の異動があったことから、各委員と職員が自己紹介を行った。 4. 議題 (1) 議案第1号 平成30年度文化関係事業の計画及び予算について 事務局より提案し、質疑なしで承認。 (2) 議案第2号 町指定文化財候補について ア 事務局より提案する。 候補として、丸木舟、鉾山墓地、八雲焼に絞って調査・検討する。 イ 丸木舟 ・鉄板等、後から付けられたものを外し、出来る限り元の状態とする。 ・舟の実測図を作成し、他地域との違い等検討をする。 ・樹種同定を行う。 ウ 鉾山墓地 ・文書記録の調査を行う（無量寺の過去帳、函館中央図書館の文書）。 ・現地調査をし、状況を調査する。 ・今後の管理方法を検討する。 エ 八雲焼 ・指定するのは、①完形の製品・窯道具・八雲焼を示すマークが付いた製品及び破片②窯跡とする。 ・①は、所有者（八雲産業）の了解を得て指定する。 ・②は、窯跡の保護のため、史跡として指定する。土地の買い上げも検討してはどうか。 ・陶工についてはどこから来たのか明確に判明しておらず、調査の必要がある。八雲焼以外に、陶工が使っていたと思われる磁器片がある</p>					

ため、そこから陶工の出身地につながる可能性がある。

(3) 報告第1号 平成29年度文化財関係事業(下半期)の実施報告及び決算について

ア 事務局より報告、質疑なし。

(4) 報告第2号 郷土資料の寄贈・寄託状況について

ア 事務局より報告。

イ 質疑

(ア) 長坂委員より

資料の寄贈理由は何か。

事務局より

家を壊す・町外に転居・倉庫整理で見つけたなど、理由は様々。

資料館の収集方針に合うものを受け入れている。

委員より

なんでも受け入れるのではなく、かかわりのあるもの、ゆかりのあるものを集めたほうがよい。

(イ) 小島委員より

No8に図書とあるが、内容は。

事務局より

主に道内の郷土史についての本。

(5) その他

ア 八雲町が所有する道指定文化財の赤彩注口土器が、東京国立博物館(7月3日～9月2日)とパリ日本文化会館(10月17日～12月8日)で展示されることを報告。

イ 八雲青年会議所主催で八雲の開拓についての劇が8月26日14時から開催されることを報告。脚本について資料館が校正等行った。

ウ 以前、文化財保護審議会を、町外研修会を復活させて年3回としてはどうかという提案が委員からあった。予算申請したが通らなかったため、今年度も年2回の開催とすることを報告。次年度に予算要求する。

エ 井上会長より

以前は臨時職員を含めて3人体制だったのが2人体制に減っている。

学芸員を補佐する臨時職員を増員することはできないのか

吉田課長より

検討する。

(以上)

平成 30 年度

## 第 1 回八雲町文化財保護審議会

開催日時 平成 30 年 6 月 18 日(月)

午前 10 時 00 分～

開催場所 八雲町公民館第一会議室

1. 開 会

2. 挨拶

八雲町教育委員会 教育長 田 中 了 治  
八雲町文化財保護審議会 会 長 井 上 光 雄

3. 委員紹介

4. 職員紹介

5. 議 題

議案第 1 号 平成 30 年度文化関係事業の計画及び予算について(1～2 頁)

議案第 2 号 町指定文化財候補について(3～17 頁)

報告第 1 号 平成 29 年度文化財関係事業(下半期)の実施報告及び決算について(18 頁)

報告第 2 号 郷土資料の寄贈状況について(19 頁)

そ の 他

6. 閉 会

議案第1号 平成30年度文化財関係事業の計画及び予算について

1 文化財関係予算

	予 算 名	主 な 予 算 内 容	予算(千円)
1	史跡史料管理費	梅村庭園、郷土資料収蔵庫等の施設及び史跡の管理に係る経費	6,617
2	郷土資料館費	郷土資料館と木彫り熊資料館の管理及び事業等に係る経費	1,695

2 文化財関係事業

	事 業 名	開催予定日時	開催場所	目 的	実 施 予 定 内 容	予算(千円)
1	文化財パトロール	未 定	町 内	国指定文化財や埋蔵文化財包蔵地の巡視	町内に所在する指定文化財や埋蔵文化財包蔵地を、渡島教育局職員と道より委嘱を受けた文化財調査員等とともに巡視し、毀損や破壊などがなければ調査する。	0
2	重要文化財公開展示	10月6日(土)～11月11日(日)	木彫り熊資料館小展示室	指定文化財の公開展示	文化財保護強調月間に国指定重要文化財「コタン温泉遺跡出土品」の公開・展示を行う。	0

3 郷土資料館関係事業

	事 業 名	開催予定日時	開催場所	目 的	実 施 予 定 内 容	予算(千円)
1	企画展 熊大工 加藤貞夫の木彫り熊展	4月28日(土)～8月26日(日)	木彫り熊資料館	八雲の木彫り熊作家とその作品の紹介	自らを「熊大工」といった加藤貞夫の、初期から円熟期までの作品を紹介する。 展示期間中の6月23日(土)14時から、展示担当者による講演会を開催する。	146
2	企画展 私立八雲聾唖学院と辻本繁	5月12日(土)～6月24日(日)	木彫り熊資料館	八雲聾唖学院の歴史の紹介	昭和3年に、辺地での聾児教育を目指し函館訓盲院の教職を辞した辻本繁が、八雲聾唖学院を創設した歴史を紹介する。	
3	企画展 八雲町内遺跡展	8月11日(土)～10月8日(月)	木彫り熊資料館	文化財保護思想の普及と啓発	八雲町で行われた発掘調査の内容を、出土した遺物や発掘調査の写真などで紹介する。	
4	企画展 収蔵美術展	2月～3月	木彫り熊資料館	芸術文化の鑑賞機会の充実	郷土資料館が所蔵している美術作品を公開展示する。	
5	企画展 ひな人形展	2月9日(土)～3月3日(日)	梅雲亭	ひな祭りの歴史と文化の紹介	郷土資料館が所蔵する明治期から昭和期にかけてのひな人形やひな道具と、やくもレディーネットが所蔵する各地のおひな様を展示する。【やくもレディースネットと共催】	
6	化石採集体験学習	6月16日(土)	町内	地層の観察や化石の採集をとおして化石について学ぶ	化石が見られる露頭に行き、地層の観察や化石の採集を体験する。	10
7	少年文化財教室	未定	町内	体験学習をとおして、自然や歴史について学ぶ	未定	14
8	縄文文化体験講座	1月12日(土)	公民館	体験学習をとおして、縄文文化について学ぶ	縄文時代から作られている勾玉作りを体験し、縄文時代の技術を学ぶ。	11
9	古文書教室	9月1日(土) (八雲地域)	公民館	地域の歴史を文献史料によって学ぶ	北海道立文書館の「古文書教室」を郷土資料館と共催で実施し、古文書の基本と八雲の歴史について学ぶ。	14
10	史料より見る歴史講座	10月 (熊石地域)	ふれあい交流センターくまいし館		熊石地域に関する古文書から知りえる、熊石の歴史について学ぶ。	

4 主要事業

	事 業 名	実施時期	実施場所	目 的	事業概要と事業経費	予算(千円)
1	尾張徳川家所蔵木彫り熊とアイヌ民具の寄託・整理及び展示事業	通 年	木彫り熊資料館	資料の寄託と台帳整理・展示公開	事業概要 北海道みらい事業「北海道150年事業」に登録された事業で、八雲産業株式会社東京本社と八雲事業所が管理しているユーラップアイヌ資料と木彫り熊資料の寄託を受けて、台帳整理と企画展「徳川さんと八雲のかかわり～木彫り熊とユーラップアイヌ文化～」(9月15日～11月25日)を開催する。 事業経費 旅費(普通旅費):87千円、需用費(消耗品費):62千円、役務費(運搬料):1,098千円。	1,247

## 議案第 2 号 町指定文化財候補について

平成 27 年度の第 2 回審議会では出された町指定文化財候補として、丸木舟（郷土資料館所蔵）、八木勘市宅、鉾山墓地、八雲村創業者談（八雲産業株式会社管理）、ヨーク（八雲産業株式会社・郷土資料館寄託資料）、木彫り這い熊（八雲産業株式会社・郷土資料館寄託資料）、板倉（八雲産業株式会社八雲事業所敷地内）、茶器・煙草火入れ（八雲産業株式会社管理・郷土資料館寄託資料）、薄荷蒸留釜（八雲産業株式会社管理・郷土資料館寄託資料）、メタセコイヤ（八雲産業株式会社八雲事業所敷地内）。

平成 30 年度の第 2 回審議会では、候補をしぼった方が良いという意見に基づいて、候補を丸木舟、鉾山墓地、八雲焼の 3 点とする。

### 丸木舟

八雲町関連の丸木舟は、八雲町郷土資料館所蔵が 3 艘、市立函館博物館所蔵が 1 艘、北海道大学農学部付属博物館所蔵が 1 艘の計 5 艘が確認されている。

郷土資料館所蔵の丸木舟のうち 1 艘と函館博物館所蔵、北海道大学所蔵の丸木舟はユーラップアイヌ関連の資料と考えられる。さらに、北海道大学所蔵の丸木舟は、大正末期頃製作のもので国の重要有形民俗文化財に指定されている。

他の市町村で、丸木舟の指定状況を確認すると、厚真町、苫小牧市、長万部町で文化財指定がされている。

丸木舟一覧（八雲町関連）

NO	所蔵	規格等（cm）					由来・特徴等	制作者	備考
		長さ	幅	深さ	舷厚	樹種			
1	八雲町郷土資料館	524	70	23		不明	鉛川の開拓者が使用したもの。	不明	収蔵番号：1137
2	八雲町郷土資料館	623	44	22		不明	制作年は昭和24年。ふ化場の鮭監視用として使用したもの。先端部分が破損している。十島氏制作の船。	不明	収蔵番号：1138
3	八雲町郷土資料館	660	59.5	30		マツ（カツラ）	椎久氏が所有していた丸木舟で、ふ化場職員が譲り受けて、ふ化場で使用したもの。その後、沖揚音頭保存会が受け入れる。昭和52年のユースラップ川下りに使用されたときに水色のペンキが塗られた。	不明	収蔵番号：1139
4	市立函館博物館	648	53	25	33	セン	「丸木舟」昭和41年に椎久きみ氏より寄贈。船尾「トダテ」部分はほぼ垂直に削っている。船から見て中心線は左寄り、左舷がふくらんで湾曲している。	不明	所蔵目録番号 N0.757
5	北海道大学農学部付属博物館	605	49	18	2	ドロノキ（ヤチダモ）	「アイヌのまるきぶね」北海道大学に保管されているアイヌの河沼用まるきぶね（チップ）は、ヤチダモの一木をくりぬいて製作されたものである。河沼用の漁及び交通運搬などに使用されたもので、アイヌの生活習俗を知る上で重要である。また、丸木舟の典型的な製作技法を伝えており、我が国の船の変遷を考える上でも重要なものである。【国の重要有形民俗文化財】	椎久年蔵 (大正末期)	「北海道の文化財」では、ヤチダモと記載されている。 昭和32年6月3日指定

丸木舟一覧（他市町村の指定文化財）

NO	所蔵	規格等（cm）					由来・特徴等	制作者	備考
		長さ	幅	深さ	舷厚	樹種			
6	厚真町教育委員会	560				ナラ	「丸木舟」明治10年頃に厚真川河口の渡舟用として使っていたもの。舟の前後とも上部の両端をアゴ形に残し、他を10cm程削り落とした道内唯一の割竹形をしており、縦断面はメーリングン形をしている。ナラの木で長さ5.6m、内径45cm、円周1.75m。【厚真町指定有形文化財】	不明	昭和48年10月22日指定
7	苫小牧市博物館	903～65				カツラ、ヤナギ、アオダモ	「アイヌ丸木舟および推進具」 昭和41年に発掘された丸木舟で、河川用3艘と海漁用2艘とアイヌ所有の標識のある櫂・棹などの推進具。舟は最大のもので全長9.03m、最小で6.5mの完全な刳舟で、カツラ・ヤナギ・アオダモなどで作られている。樽前B火山灰層下部からの出土であるため、約300年以前のアイヌ文化期のものと推定される。【北海道指定有形文化財】	不明	昭和42年6月22日指定
8	長万部町	584.0	86.5			不明	「丸木舟」アイヌ民族が使用していた丸木舟。昭和50年の台風の水害により偶然発見された。長さに対して幅が広いという特徴がある。船首は反りは小さく、薄手造りである。 【長万部町有形民俗文化財】	不明	平成23年3月23日指定

## 鉛川鉾山墓地

1. 所在 八雲町鉛川八雲事業区 林小班：182ハ
2. 面積 2,182 m<sup>2</sup>
3. 鉾山

八雲鉾山墓地に現存する文久元年(1861)雪崩で死んだと伝えられる多数の墓から見て、相当なものであったと想像される。これらの死亡者は東北地方(秋田県鹿角郡)の出身者であることも最近判明した『八雲町史』(昭和32年)。

江戸末期からあった旧八雲鉾山の共同墓地調査を行ったが、文久元年(1861)と刻まれた墓石が見つかった。墓地は八雲市街地から約二十五キロ離れた同町鉛川、旧八雲鉾山(昨年閉山)跡近くの山の中腹にある。鉾山は延宝年間(1673～1680)にはすでに幕府、松前藩が金、銀、鉛などの採掘を行っていた。(中略)古い墓石の中には文久元年の日付を刻んだのが四基や丸に柏の紋のついた墓石もあった。文久元年には鉾山でなだれのため、多数の死亡者を出したという記録もあることから、当時の犠牲者も含まれているものとみられる「昭和45年5月22日付け北海道新聞」抜粋。

墓地があるのは、現町営八雲温泉から約1.6キロ鉛川本流をさかのぼった地点の右岸にある薬師堂わきの墓地。ここの墓石は文久年間(1861～1864)のもので、昭和43年に閉山したマンガン鉾山の過去を解明する貴重な資料になるとされていた。(中略)確認されたのは6基の建立年月日が全て文久元年の2月から8月までの短期間に限定されている点で、伝染病が流行したことも考えられるが、この年、大雪崩で多数の死者が出たというなかば伝説化された事件の实在を傍証するものではないかとの見方も出された。また、「秋田俗名西松・・・」といった碑文例から見て、当時、この鉛鉾山に従事していた人々に秋田県出身者が多かったことも確認された。このほか、建立年月日の下に「天」の一字が刻まれているものがあり、隠れキリシタンを意味するものではないかという興味深い意見も出された「昭和45年5月16日付け北海道新聞」抜粋。

鉛川鉞山墓地の墓碑

① 正面 文久元酉年

左側面 南部鹿角 赤沢

⑥ 正面 文久元年

操室妙貞信女位

きよ

金山定安觀信士

二月十九日

酉 五月二日

② 正面 文久元年

左側面 南部俗名○助 金治良

○○

金城番蓮信士

立之 惣助

秋山妙冷信女

二月廿日天

利吉

酉八月十日

③ 正面 文久元年

金安定觀信士

酉 二月廿九日

④ 正面 文久元酉年

左側面 秋田 俗名 酉松

禪峰明宗信士

立之 相之助

四月二日天

玉之助

庄之助

⑤ 正面 文久元年

右側面 奥州 鹿角郡

金室貞妙信女

○沢村

酉四月一三日

俗名志げ

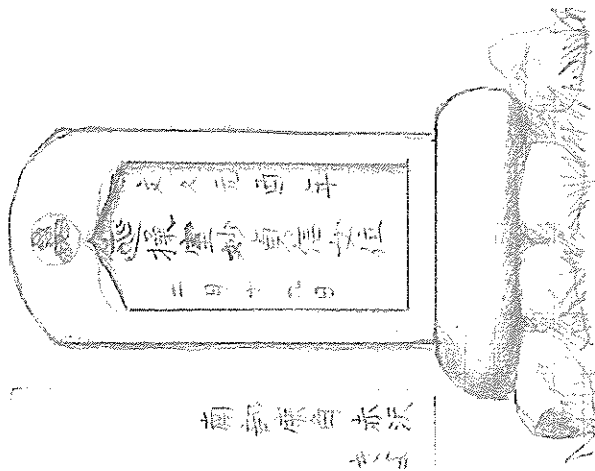


S, 51. 5. 14

鉛川鉦山墓地

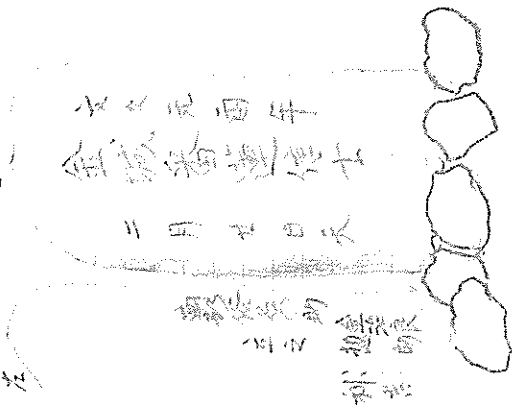
左

①



68 x 34

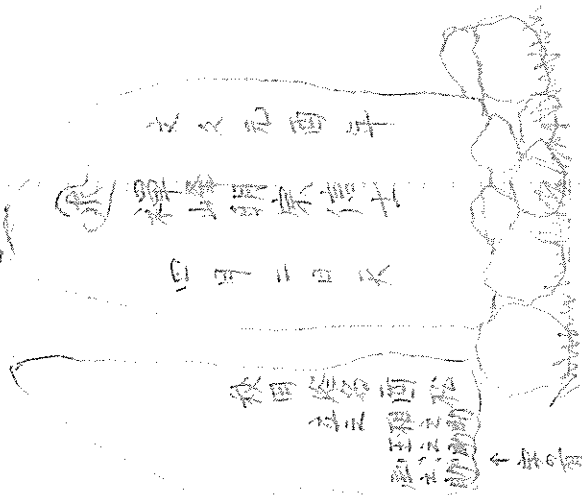
②



78 x 25

左

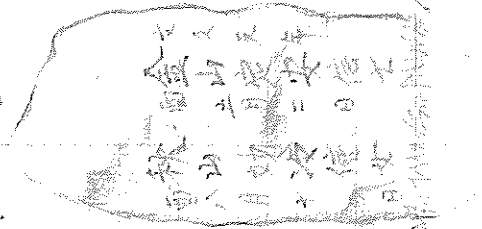
③



80 x 50

↑ 去。有家物新。文三

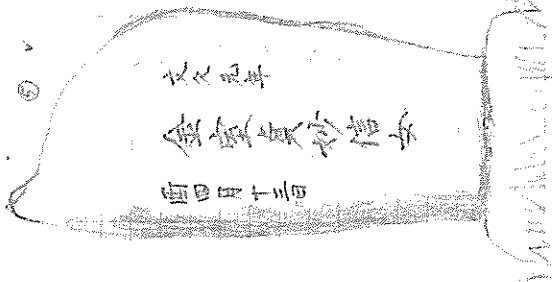
④



70 x 46

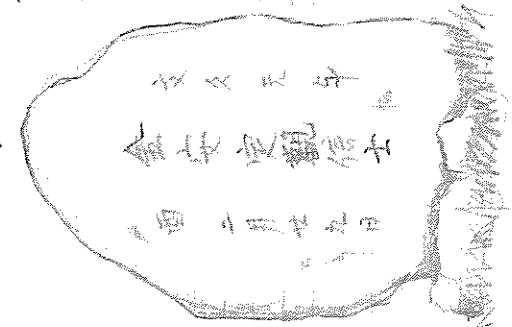
文三野田。野田。 共三野田。文三。 秋山。文三。野田。

⑤



85 x 29

⑥



70 x 45

妙。文三野田。野田。共三野田。文三。秋山。

奥州三野田。野田。共三野田。文三。秋山。

右

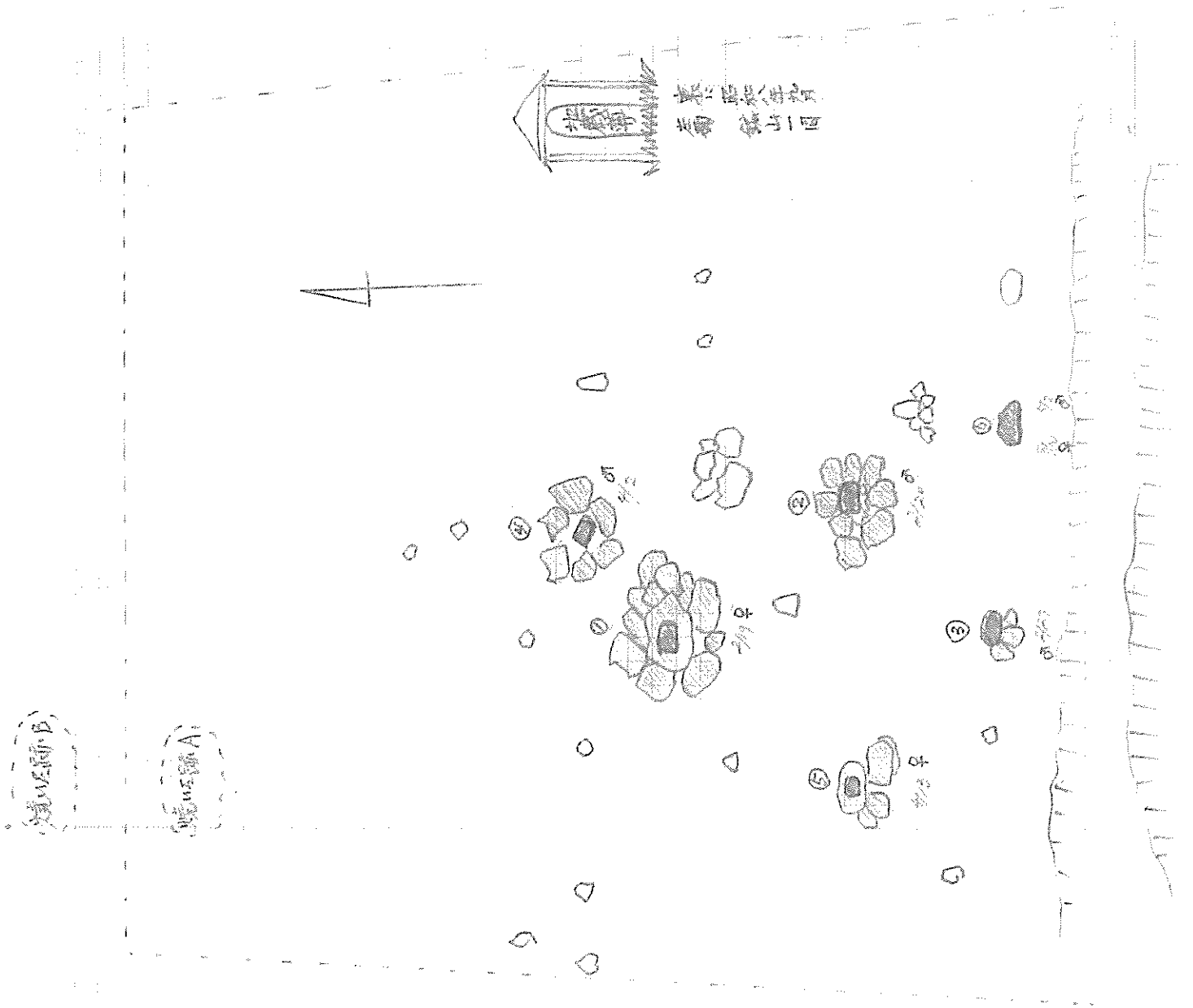
奥州 徳富 保良 文三

奥州三野田。野田。共三野田。文三。秋山。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

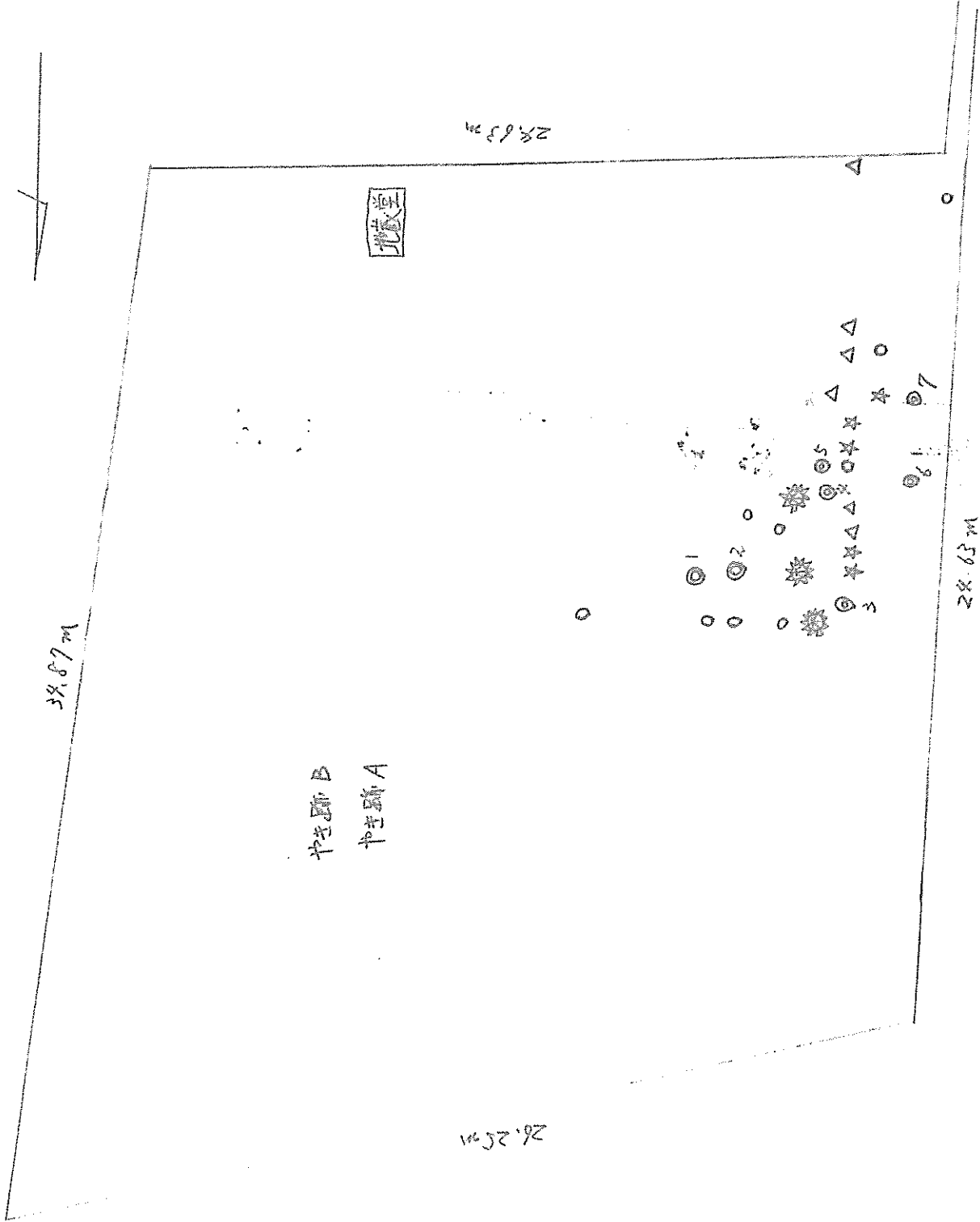
① 文三野田。野田。共三野田。文三。秋山。  
② 文三野田。野田。共三野田。文三。秋山。  
③ 文三野田。野田。共三野田。文三。秋山。  
④ 文三野田。野田。共三野田。文三。秋山。  
⑤ 文三野田。野田。共三野田。文三。秋山。  
⑥ 文三野田。野田。共三野田。文三。秋山。

奥州三野田。野田。共三野田。文三。秋山。  
文三野田。野田。共三野田。文三。秋山。  
文三野田。野田。共三野田。文三。秋山。  
文三野田。野田。共三野田。文三。秋山。  
文三野田。野田。共三野田。文三。秋山。  
文三野田。野田。共三野田。文三。秋山。



1971年4月20日撮影の墓園図





○ 小石 (墓石などはお不明)

◎ 墓石

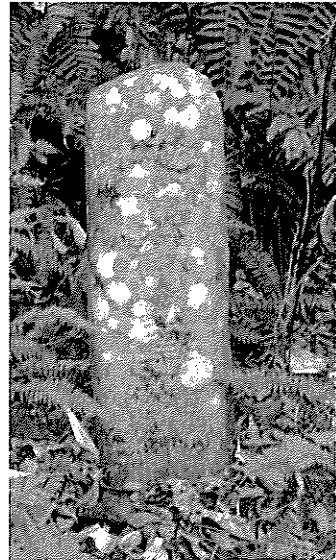
△ 塔婆 (左より)

✕ " (右より)

1. 榑崎明宗信士 (文久元)
2. 探室妙貞信文位 (文久元)
3. 金堂貞妙備女 (文久元)
4. 金堂普蓮信士 (文久元)
5. 笈曲代女之墓
6. 金堂定観信士 (文久元)
7. 金山定身信士 (文久元)  
金山妙信

28.25m

鉾山墓地の状況  
平成 26 年 11 月の調査



## 八雲焼

### 1. 北海道の窯業のあゆみ

北海道の窯業は、安政6年に開窯した箱館焼(函館)が始まりとされている。

明治期に操業された窯は、明治5年の土場焼(小樽)、明治30年頃の札幌焼(札幌)、明治40年頃の八雲焼(八雲)、明治43年の新十津川焼(新十津川)、明治末頃の頓平焼(札幌)などで、この時期は陶工の多くが本州からの来道者であった。

当時の窯業は、材料や人件費が高つくため、本州からの移入品に押されて長続きする窯はまれであった。また、窯址が残っているのは八雲焼と札幌焼だけと言われている。

### 2. 八雲焼の窯址と捨場調査

八雲焼は、地元の人聞き取りや花びんに書かれた年号「戊申夏日」(明治41年夏)などにより、明治40年頃から数年間作られたものと考えられている。

#### (1) 窯址の調査

八雲焼の窯址は、八雲町大新のハシノスベツ川左岸の標高43.0~40.5mの斜面に所在している。

昭和52年8月2日~8月6日にかけて、教育委員会の主催で、北海道開拓記念館職員と八雲高等学校郷土史研究部員等の協力で調査が行われた。

調査の結果、斜面を利用した“のぼり窯”の基礎レンガが確認された。レンガの配置から、窯の規模は長さ約10.2m、幅約4.5mの3間の構造と推定された。また、八雲の銘がある底部破片や本焼に用いられる粘土製の道具で、サヤ、ハマ、ツメなどが出土した。

#### (2) 窯址横の捨場調査

平成7年7月24日~8月4日にかけて、教育委員会の主催で調査を行った。

調査の結果、窯址東側に窯址の長軸に沿って土管の埋設とそれに直交する溝が検出された。また、粘質土の覆土層より多量のすり鉢、とっくり、湯たんぽなどの素焼破片が出土した。

### 3. 八雲焼。

#### (1) 伝世品

八雲焼の製品は、町内に伝世品が約30点確認され、上手物じょうてものと雑器がほぼ半

数を占めている。


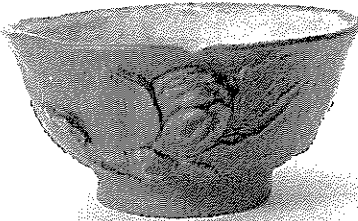



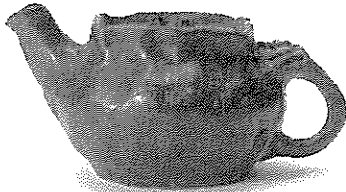
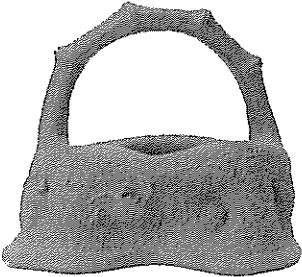


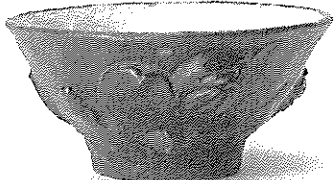

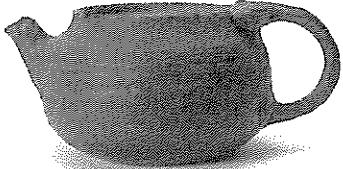
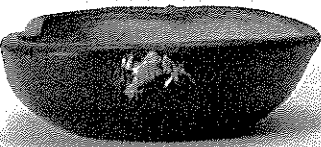
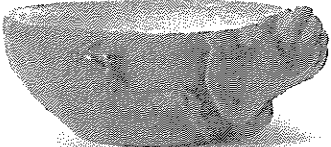
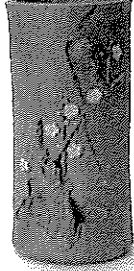
上手物には花びん、急須、茶わん、湯ざまし、煙草火入などがあり、ほとんどに銘が施されている。銘は、花びんには釘書により陶工名を記し八雲という打ちこみが、急須、茶わん、湯ざましには、小さな粘土板を貼って、その上に八雲と打ちこみがみられる。雑器には、水がめ、火ばち、湯どおし、しびん、すりばち、片口、中皿、湯こぼしなどがあるが、銘は施されていない。

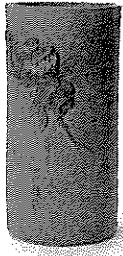
八雲産業株式会社管理品：急須1点、茶わん5点、煙草火れ1点。

八雲町郷土資料館所蔵品：花びん、湯どおし、しびん、片口、湯こぼしなど。

## (2) 出土品

窯址調査では、窯の構造材の基礎レンガ（20.5×13.0×11.0 cm）、本焼きに用いられる粘土製品（サヤ、ハマ、ツメ）や素焼破片（すり鉢、湯たんぽ、とっくりなど）が多量に出土した。

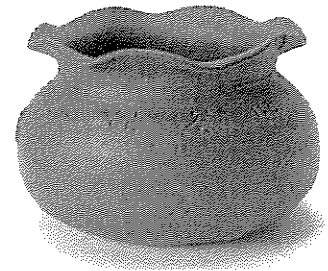
		
<p>1. 茶わん1 (八雲産業)</p>	<p>2. 茶わん2 (八雲産業)</p>	<p>3. 茶わん3 (八雲産業)</p>
		
<p>4. 茶わん4 (八雲産業)</p>	<p>5. 茶わん5 (八雲産業)</p>	<p>6. 急須(八雲産業)</p>
		
<p>7. 煙草火れ (八雲産業)</p>	<p>8. 茶わん1 (資料館)</p>	<p>9. 茶わん2 (資料館)</p>
		
<p>10. 茶わん1 (個人蔵)</p>	<p>11. 茶わん2 (個人蔵)</p>	<p>12. 急須 (資料館)</p>
		
<p>13. 湯ざまし1 (資料館)</p>	<p>14. 湯ざまし2 (資料館)</p>	<p>15. 花びん1 (資料館)</p>



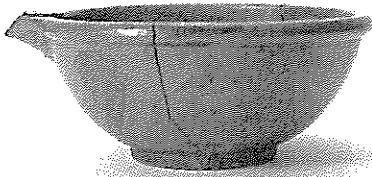
16. 花びん2 (資料館)



17. 花びん3 (資料館)



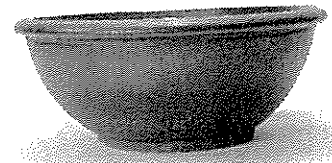
18. 湯こぼし (資料館)



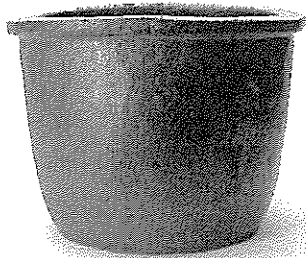
19. 片口 (資料館)



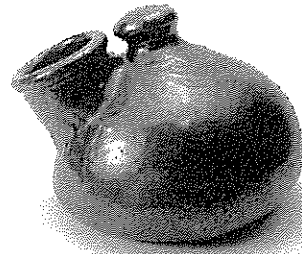
20. 火ばち (資料館)



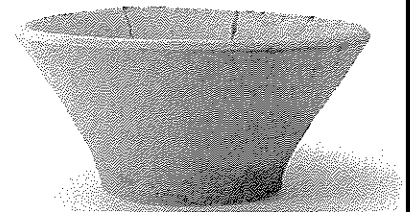
21. こねばち (資料館)



22. 水がめ (資料館)



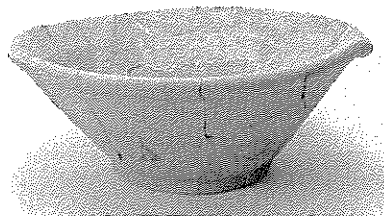
23. しびん (資料館)



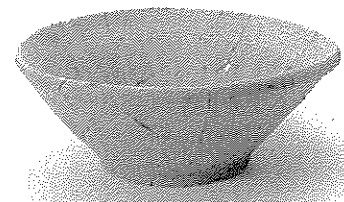
24. はち (資料館)



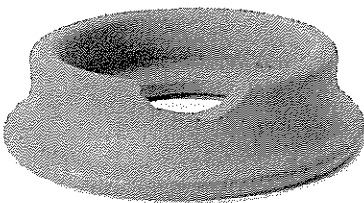
25. すり鉢1 (資料館)



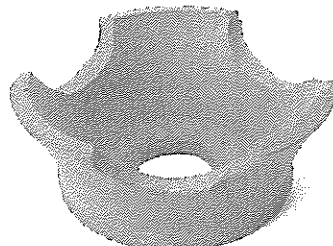
26. すり鉢2 (資料館)



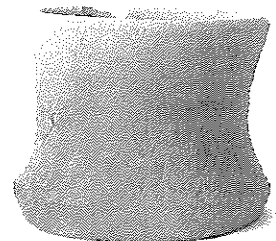
27. すり鉢3 (資料館)



28. サヤ1 (資料館)



29. サヤ2 (資料館)



30. サヤ3 (資料館)



		
3 1. ハマ (資料館)	3 2. ツク 1 (資料館)	3 3. ツク 2 (資料館)
		
3 4. ツメ (資料館)	3 5. より土 (資料館)	3 6. レンガ1 (資料館)
		
3 7. レンガ 2 (資料館)		

上手物（1～17）は、単に焼きしめたもので、内面や一部に施釉されている。銘が施されているものが多い。

湯ざまし：茶を入れるための湯を冷ます道具。

雑器（18～27）は、いろいろな種類のものがあり、多くは素焼で銘は施されていない。

湯こぼし：点前中に湯や水を捨てる道具。

片口：注ぎ口を作り出した容器。

道具他（28～37）は、本焼きに用いられた粘土の道具と窯の構築材。

ツメ：製品を重ね焼きする時に挟んで安定をよくする道具。

より土：サヤを重ね焼く時にサヤとサヤの間に挟んで安定をよくする道具。

ハマ：製品となる物をその上に乗せ、製品が床につかないようにする道具。

サヤ：製品となる物をこの中に入れて、炎や熱が直接当たらないようにする道具。

ツク：製品を乗せる棚板と棚板の間に柱のようにしておく道具。

報告第1号 平成29年度文化財関係事業(下半期)の実施報告及び決算について

1. 文化財関係事業

報告済み

2 郷土資料館関係事業

	事業名	開催日時	開催場所	目的	実施内容	決算(千円)
1	縄文文化体験講座 (勾玉作り)	平成30年1月13日 (土)9:00~12:00	公民館	体験学習をと おして、縄文 時代の生活文 化を学ぶ。	小学生を対象として、縄文時代の終わり頃 から古墳時代にかけて作られた勾玉が、ど の様な目的で作られ、なぜあの様な形に なったのかを、実際に勾玉作りをとおして 学ぶ。参加者人数:小学生24名(保護者5 名)。	4
2	企画展 ひな人形展	平成30年2月12日 (月)~3月3日(土)	梅村庭園 内の梅雲 亭	ひな人形やひ な道具を展示 し、ひな祭りの 歴史や伝統に ついて学ぶ。	やくもレディースネットと共催で、郷土資料 館が所蔵する明治期から昭和期にかけて のひな人形などの展示とやくもレディース ネットが所蔵する各地のおひな様の展示を 行う。 開催期間中の2月25日(日)には、やくもレ ディースネットによる甘酒の提供。3月3日 (土)には八雲茶道倶楽部による抹茶の提 供が行われた。 入館者数:653名。	0
3	少年文化財教室	平成30年2月17日 (土)10:00~12:00	公民館	体験学習をと おして、八雲 の自然や歴史 について学 ぶ。	アイヌ文様の切り絵を使って、飾りやしおり 作りを体験する。 参加者:小学生6名(保護者等2名)	4
4	企画展 収蔵美術展	平成30年2月20日 (火)~3月18日 (日)	木彫り熊 資料館	芸術文化の鑑 賞機会の充実 を図る。	郷土資料館が所蔵する西村計雄、伊藤悌 三、碓井正人、新井康須夫、藤岡心象、服 部讓司、折橋真理子、大島和芳の油彩画 を中心に展示を行う。入館者数:314名。	0

報告第4号 郷土資料の寄贈・寄託状況について(平成30年1月18日～平成30年6月13日)

No	住所	年月日	点数	産地・資料名・年代・作者等	
1	八雲町	平成30年3月8日	一括	八雲	土器・石器
2	函館市	平成30年3月9日	2点	不明	木彫り熊
3	函館市	平成30年3月14日	1点	不明	木彫り熊
4	札幌市	平成30年3月27日	6点	不明	木彫り熊5点、石炭彫熊1点
5	八雲町	平成30年4月8日	一括	八雲	太田半三郎氏資料(写真等)
6	八雲町	平成30年4月29日	1点	八雲	木彫り熊加藤貞夫作
7	壮瞥町	平成30年5月5日	5点	芦別等	木彫り熊(芦別1点、苫小牧2点、旭川1点、不明1点)
8	八雲町	平成30年5月7日	27点		図書
9	八雲町	平成30年5月19日	18点		加藤貞夫氏の写真や木彫り熊に関する本等
10	八雲町	平成30年6月1日	3点		永洞洋三作油彩2点、笹勇一作油彩1点
11	京都府	平成30年6月8日	2点	八雲	木彫り熊(吠え熊台付茂木作1点、這い熊根本作1点)

合計11件(八雲町内から6件、道内から4件、道外から1件)の方から寄贈があった。  
 合計65点と一括2点(内、木彫り熊と関連資料35点)の資料の寄贈があった。